名古屋市立小中特別支援学校事務研究協議会
http://meijiken.sakura.ne.jp/

名事研ニュース

No.150
発行日　平成27年7月6日

名事研GD5ヵ年の最終年度　そして次のステップも見据えた活動・実践を！

名古屋の学校事務をデザインする

会　長　加藤　豊子
（名城小学校）

『変わる』『変えていく』ことを阻む最大の要因のひとつは、自分自身の意識の奥に存在する今の状態を守ろうとする免疫機能だといわれています。掲げた目標を成し遂げたいと心の底から強く要求できるかどうか・・・。自分自身を振り返っても、様々な場面で揺れ動く自分がいます。この揺れ動きの中で、「子どもたちのために」との思いと「今、何をすれば良いのか」は考え続けなければと思ってきました。

　名事研の年間テーマである「名古屋の学校事務をデザインする〜夢に向かうなごやっ子のために〜」も5年目となり、次へのステップを踏み出すための歩みが始まります。

　「名古屋の学校事務のグランドデザイン」のめざす学校事務像・めざす学校事務職員像には、学校事務に込められた使命や将来像があらわされています。行動計画には具体的な目標と必要な取組みが計画されています。このグランドデザインも総括の年となりました。

　そして、平成二十七年度の「名古屋の学校事務のグランドデザイン」の年次テーマは、「学校事務の高度化」です。

　私たち学校事務職員は何のために働くのか、それはどこに生かされていくのか。子どもたちの輝く未来のために、新たな学校事務の展開を考え、実践していきましょう。

平成二十七年度名事研活動について

副会長　内藤　洋子
（荒子小学校）

名事研は、平成二十三年度からの五年間で、目指す目標と行動を明らかにした名古屋の学校事務のグランドデザイン（以下、名古屋GD）を策定し、取組みを進めてきました。最終年度となる今年度は、昨年度と同様に年次テーマを「学校事務の高度化」とし、学校を良くしていくための学校運営への関わりについて考えるため「教育課程の実施と学校事務機能」について会員皆で取り組んでいきます。また、名古屋GDの五年間を振り返り成果と課題について整理・総括し、二十八年度以降の名古屋GD策定に向けて、検討を進めていきます。

　そして、目前に迫ってきた県費負担教職員の権限委譲についても検討していく必要があります。そのためにさまざまな課題を整理し、今後の環境の変化等に注意しながら事業の精選に積極的に取り組み、名事研事業の「見える化」を図るとともに、事務局、世話係、専門部、会員と連携しながら事業を推進していきたいと考えています。

　今年度新たな名古屋市教育振興基本計画が策定され、この計画で今後四年間取り組んでいくことになります。夢に向かうなごやっ子のために、変化を恐れず、情勢を見極めながら日々の実践を積み重ね、ともに進んでいきましょう。

発行　名古屋市立小中特別支援学校
事務研究協議会
情報部
発行責任者　則武　真雄

定期総会・講演会

四月二十二日（水）に名古屋市教育センターで平成二十七年度定期総会が行われ、平成二十六年度事業報告・決算報告、平成二十七年度事業計画・予算案等が承認されました。

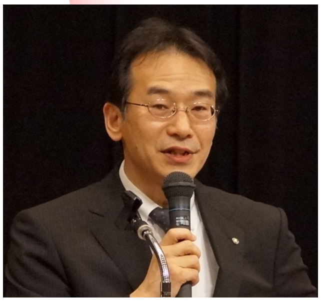
年次テーマに取り組むことと併せて、これまでの成果や課題をふまえた上で、平成二十八年度以降のグランドデザイン策定に向けた検討も行うといった事業計画の提案がされました。また、事業を進めるにあたり、「見える化」を常に意識しつつ、世話係や会員との協力を得ながら行っていきたいということでした。

そして、定期総会の最後には新規採用者のあいさつがありました。今年度は二十名の仲間が新たに加わってくれました。緊張した面持ちながら、全員期待に満ち溢れる自己紹介の挨拶姿を見ると、将来の名古屋の学校事務を担う存在となって活躍するのではないかと期待されます。

また、定期総会に先立ち、名古屋市教育委員会　教職員課長　早川孝一氏を講師に招き、「学校事務職員に期待すること」をテーマとした講演を行いました。

学校事務職員に期待することとして、「学校事務に対しての工夫・改善」についての話がありました。地道な取り組みかもしれないが、事務職員だけでなく学校全体として取り組むこと、また、学校間連携での取り組みや学校事務支援センターのＨＰを活用することで、適正化や効率化を進めていってほしいとのことでした。

次に「行政スタッフとしての情報の発信」、「行政的なアプローチ」ということでお話がありました。以前に、事業計画の企画書にかかる経費項目の書き方について悩んでいた際に、事務職員の方と話し合いながら企画書を作成した経験談を例に挙げ、事務職員の方が情報の発信をする事によって学校運営が円滑に行く部分があるのではないかということ、また、計画した予算が実際に執行しているかどうかの確認の声かけなどが「行政的なアプローチ」となるのではということでした。そして、ぜひ授業を実際に見ていただき、購入した物品がどのように使われているのかも知っていただきたいといったお話がありました。



専門部紹介

よろしくお願いします！

事務局

事務局長　遠藤　剛

たとえどんなに大きな制度変更があったとしても、子どもたちがいる限り学校があり、学校がある限り学校事務はあります。

私たち学校事務職員が子どもたちの学習環境をより良くしていくために、学校事務の仕組みを研究したり今後の展望を考えたりする事は、自然な行為であると共に大きな意味を持っていると考えています。

今年度は名古屋ＧＤ五年間の総括の年であり、次期ＧＤ策定に向けて検討をする年でもあります。会員のみなさまと一緒に考えながらより良いものにしていきたいと思っております。一年間よろしくお願いいたします。

研修部

研修部長　土井　裕子

私たち学校事務職員を取り巻く環境が、大きく変わろうとしています。でも、どんな変化があっても、「学び続ける大切さ」は変わらないものだと思います。

研修部では、今年度、「教育課程と学校事務職員」をテーマに全体研修会を行います。また、その他の研修会やＳｏｌα（ソラ）も、鋭意準備中です。皆様が学び続けるきっかけの一つとして、今年度も、部員一同、充実した研修を作っていきたいと思いますので、ご参加よろしくお願いします！

研究部

研究部長　加島　道代

学校事務職員は、教育課程の編成や実施にどのように関わることができるのでしょうか。今後の学校運営に必要な学校事務機能は何でしょうか。学校事務の高度化を進めるため、この二つのことについて、これまでの研究や実践を生かし研究していきます。また、次期ＧＤの策定に向けて、取り組みます。

実践と研究がリンクするには、会員の皆様の実践と意見が大切です。是非、研究部に情報提供をお願いします。ともに名古屋の学校事務を描きましょう。

情報部

情報部長　則武　真雄

今年度も名事研ニュースや広報誌「じむけん！」の発行を行い、情報発信に努めていきたいと思います。併せて、名事研ＨＰについても随時更新をしていくよう努めます。また、会員への情報発信や情報提供のあり方などについては、今年度も引き続き検証及び検討をしていきたいと思いますので、ご協力のほど、よろしくお願いします。

専門部では現在も部員を募集しています。一人でも多くの方と協力して活動していきたいと思います。興味のある部があれば，直接各部長まで連絡してください。お待ちしております。

編集後記

五ヶ年計画の最終年度がスタートし、今年度の計画の推進とともに、今までの振り返りや、二十八年度以降の取り組みについても考える一年となります。

会員の皆様と共に創る組織として、名事研の活動が行えるようにしていきたいと思います。